

重点課題		重点目標	自己評価 評価指標と活動計画	評価 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
学力向上・進路指導の充実	①生徒の進路希望の把握に努める。 ②充実した進路情報の提供を図る。 ③教員の教科指導力を高め、ICT等を活用するなど、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。 3年生の進路実現のため、生徒の実態に合わせた科目選択ができる補習授業を実施し、生徒の成績向上に努める。 ④読書活動の推進をし、本を読む習慣を確立させ、基本的な読解力・考える力を育成する。 ⑤持続可能な社会のあり方に目を向け、一人ひとりが民主社会を形成する主権者であるという意識の向上を図る。 ⑥消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。	《評価指標》 ①面談が参考になった(80%)以上 ②学校が提供する情報(進路講演会等)が役立っていると感じる生徒(80%)以上 ③生徒による授業・補習満足度(80%)以上 ④図書館の年間(4月～翌3月)総貸し出し冊数、(2,500)冊以上 ⑤「持続可能な社会について考え、実際に行動することができている」と回答した生徒(90%)以上 ⑥「契約トラブルや消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒(70%)以上	《評価指標による達成度》 ①生徒・保護者とも各学年の満足度は80パーセント以上を達成。 ②各学年の満足度は80パーセント以上を達成している。 ③授業評価では各学年の満足度は90パーセント以上を達成している。 ④図書館の総貸出冊数は、(1,761)冊【4月～2月13日間】であった。3月末までに目標冊数の達成は厳しいと予想される。 ⑤全学年の生徒の99%が「持続可能な社会について考え、何らかの行動ができている」と回答した。 ⑥「契約トラブルや消費者保護制度にて理解できた」と回答した生徒は59%に留まった。	総合評価 (評定) B (所見) 全体として、学力向上・進路指導の充実という目標は概ね達成できていると評価できる。 生徒・保護者ともに各学年で満足度80%以上、授業評価では90%以上を達成しており、教育活動への信頼と成果が数値に表れている。 また、90%以上の生徒が持続可能な社会について考え行動できたとし、主体的な学びも進んでいる。 一方で、契約トラブルや消費者保護制度の理解は59%にとどまり、実生活に直結する分野で課題が残る。図書館貸出冊数も目標達成が厳しい状況であり、学習環境の活用促進が求められる。 今後は基礎的知識の定着と探究的活動の質向上を両立させ、進路意識のさらなる深化を図りたい。	①進路選択に役立つ面談を行うため、面談の標準化(チェックリスト化)を図る。 ②情報はネット上に移行しており、その案内に抜けがないように行う。 ③引き続き、興味・関心を高める授業づくりを進めながら、フィードバックの充実を図る。 ④読書推進活動の取組としては昨年同様であったが、貸出冊数は減少した。来年度からは図書委員を増員し、生徒の視点をさらに取り入れ読書推進に努める。 ⑤生徒が持続可能な社会の必要性を地球規模で考える意識を醸成するため、講演会等の案内を積極的にを行う。 主権者教育・消費者教育に関しては、来年度も引き続き出前講座を実施するなど外部機関との連携を積極的に図る。 ⑥(1)学年を追うごとに意識が高まっているので、1年生からの啓発を充実させる。 (2)家庭科だけでなく、社会、理科、英語など教科横断的な視点を取り入れ、身近なこと(エシカル消費など)から取り組めるよう、引き続き意識の高揚に努める。 ①(2)進路検討会を3学年担任会(毎週火曜)を活用し、10月分をこの形での実施に変更した。次年度も継続して担任会を活用することとし、これまで以上に担任間の情報共有を図る。
		《活動計画》 ①(1)担任等による個人面談を年間(4)回以上実施する。 年度当初の面談や夏季休業中の三者面談の他に平日頃から計画的に面談を行い、生徒の進路希望を把握するとともに、その実現に向けての指導を的確に行う。 (2)3年生の進路検討会を(4)回以上実施する。 ②(1)校内進路講演会・大学学部学科説明会、更にオープンキャンパスや各種説明会への案内、その他生徒の進路に必要な情報を適切に生徒に提供する。 (2)外部講師を招聘し、各学年(1)回以上進路説明会を実施する。 (3)校内進路情報誌「進路」の活用を図る。 (4)就職用模試は、1・2年生希望者(2)回以上、3年生希望者(3)回以上実施する。 できるだけ早い時期に生徒の希望を把握し、求人開拓を図るとともに、就職・公務員模試や補習、面接指導を実施する。	《活動計画の実施状況》 ①(1)すべてのホームルームで実施ができた。 (2)7・12・1月の3回実施 ②(1)進路講演会各学年生徒1回 難関大進学講演会1・2年各1回 大学学部説明会1年7月実施 (2)1年生3回、2年生2回、3年生1回、実施した。 (3)特に3年三者面談で利用した。 (4)本年度は就職希望者がいなかったため実施していない。		

		<p>③各学期に設ける授業参観週間での教員相互間による授業見学や、年間2回の生徒への授業アンケートを実施し、教科指導力の向上を図る。</p> <p>④『図書館情報』『図書館報』の発行や図書委員による広報活動を通じて、読書を奨励する。</p> <p>⑤(1)生徒の主権者意識を高めるための出前講座を実施する。</p> <p>(2)公民科の授業またはHR活動において主権者教育に関する内容を年(1)回以上取り扱う。</p> <p>⑥自立した消費者になるための意識を高めるための出前講座を実施する。</p> <p>また、家庭科、地歴・公民科の授業またはHR活動において消費者教育に関する内容を年(1)回以上取り扱う。</p>	<p>③授業参観週間を活用した相互見学も授業アンケートも年間2回ずつ実施できている。</p> <p>④『図書館情報』『図書館報』の発行、読書推進活動や図書館の環境整備を図書委員が協力して行った。</p> <p>⑤(1)2年生を対象とし、1回実施している。</p> <p>(2)公共の授業時に1回実施している。</p> <p>⑥出前講座を11月に実施した。</p> <p>また、各教科において計画どおり実施することができた。</p>		
日々の生活指導の充実	<p>①交通事故防止に努める。</p> <p>②校則について、生徒が遵守できている。</p> <p>③いじめ防止に努める。</p>	<p>《評価指標》</p> <p>①年間を通して、事故件数(20)件以内(前年度31件)</p> <p>②校則を遵守できていると回答した生徒(90)%以上</p> <p>③学校生活アンケートを年(2)回以上実施</p> <p>《活動計画》</p> <p>①通学時の交通ルールの遵守を集会等で徹底させ、交通マナーを身につけさせる指導を行う。また生活安全委員が定期的に啓発活動各HRに実施する。</p> <p>②校則の遵守について、全校集会もしくは学年集会等で全体指導を行う。また毎年、生徒会と校則の見直しを行いよりよい校則にしていく。</p> <p>③全校集会での指導や学校生活向上委員会からの働きかけを行い、よりよい人間関係を築かせ、いじめのない学校づくりをする。いじめが起これば認知し、早期に対応し解決をはかる。</p>	<p>《評価指標による達成度》</p> <p>①事故件数は28件で達成できなかった。</p> <p>②95パーセント以上遵守できている。</p> <p>③2回は毎年しているが、本年度は3回実施した。</p> <p>《活動計画の実施状況》</p> <p>①継続的な指導が実を結び苦情は減っているが、事故の根絶には、さらなる意識改革と安全教育の継続が不可欠である。</p> <p>②生徒会を主体として校則の見直しを行い、一部改定した。</p> <p>③SNS等を含む情報モラルに関する事案に対し、担任および学年団が連携して迅速な事実確認と事態の収束にあたった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 近年の傾向として、速度超過に起因する自損事故が増加傾向にある。車両性能の向上に伴うスピード過多のリスクを周知するとともに、時間的余裕を持った行動を促していきたい。</p> <p>校則については、改定事項の周知徹底を図ることで、生徒の規範意識の定着を期待したい。毎年の見直しと変わった点を周知徹底して守らせたい。</p> <p>学級内でのトラブルに対し、関係教職員が一体となって丁寧な対話と解決を図ることができた。誹謗中傷がもたらす影響を深く考える機会として全校集会等を実施することで、一人ひとりが言葉の重みを自覚し、互いを尊重し合える集団づくりを目指していきたい。</p>	<p>①R8年度からの道路交通法改定改定による、青切符導入などがあるため、啓発を十分にしていきたい。</p> <p>②校則の見直しを「ルールメイキング」の意識を持たせることにつなげ、自ら確認、理解したルールの遵守を指導していきたい。</p> <p>③各学期にアンケートを行い、実態の把握と教職員で協力体制を持ち、早期対応していきたい。</p>
特別活動・人権教育の充実	<p>①生徒が充実感・達成感を感じられる学校行事と部活動を展開する。</p> <p>②人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。</p>	<p>《評価指標》</p> <p>①(1)生徒による学校行事満足度(80)%以上</p> <p>(2)生徒による部活動評価の満足度(80)%以上</p> <p>②本校ではお互いの人権を尊重できていると回答した生徒(80)%以上</p> <p>《活動計画》</p> <p>①(1)学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。</p> <p>(2)部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導では、現場における指導を充実させる。</p>	<p>《評価指標による達成度》</p> <p>①(1)全体の81%が満足している。</p> <p>(2)全体で72%が満足している。</p> <p>②全体の99%が他者のことを思いやり他者の人権を尊重できていると回答している。</p> <p>《活動計画の実施状況》</p> <p>①(1)年間約20回程度、生徒会と連携して意見交換をできた。</p> <p>(2)専門性のある顧問を配置しつつ、各顧問が工夫ある取り組みを継続できている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 特別活動・人権教育の充実という目標は、着実に達成できていると評価できる。生徒会と年間約20回にわたり意見交換を行い、生徒の主体性を生かした学校運営が進められている点は大きな成果である。</p> <p>また、専門性のある顧問配置のもと、各顧問が工夫を重ねながら活動を継続できていることも、特別活動の質の向上</p>	<p>①(1)継続できるよう工夫を続ける。</p> <p>(2)各所で努力を重ねる。</p> <p>①(1)行事の度に生徒会役員を招集し、学校と生徒間の意見を交えながら、進めることができた。</p> <p>(2)教員の専門性を活かすことは大変重要である。同等に、経験は十分でなくとも工夫も必要であるため、顧問と部員でより良い関係を作りながら、学校全体の活性化につながるよう活動していきたい。</p>

		<p>②(1)人権ホームルーム活動の活性化を図るため人権委員会の活動の充実を図る。</p> <p>(2)人権啓発行事(人権展・人権映画会等)を実施し、人権啓発新聞「TOMORROW」を発行する。</p> <p>(3)ヒューマンライツ部を中心に支援学校との交流を進める。</p>	<p>②(1)人権学習HR活動実施記録を人権委員に毎回提出してもらい、成果や課題の共有を図った。人権委員会を年間6回開催した。</p> <p>(2)全校生徒対象に人権映画会の実施、教職員対象に人権講演会を実施した。人権啓発新聞「TOMORROW」を学期に1回ずつ発行し、生徒および保護者の人権意識の啓発に努めた。</p> <p>(3)徳島聴覚支援学校との交流会を学期に1回ずつ催し、相互理解を深めた。</p>	<p>つながっている。</p> <p>人権教育においては、HR活動記録の提出と共有、人権委員会の定期開催により組織的な取組が確立している。さらに、人権映画会や教職員向け講演会、啓発新聞「TOMORROW」の発行、徳島聴覚支援学校との継続的交流など、多角的な実践が展開されている点は高く評価できる。</p> <p>今後は、これらの活動成果を可視化し、生徒一人ひとりの行動変容へとより一層結び付けていくことが課題である。</p>	<p>②人権意識調査の結果や人権教育推進委員会の意見、人権HR活動の報告書、映画会・講演会の感想を参考に生徒の実態を把握し、実態に応じた学習内容の精選、講師先生の選出に努め、効果的な活動計画を進めていきたい。</p>
<p>課題研究(SSH)や探究活動、広報の充実</p>	<p>①スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組により、生徒の理科や数学への興味・関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、課題研究・探究活動の推進を図ることで協働的で主体的な学びを推進する。</p> <p>②国際交流に関する取組を進め、多様な価値観を持つ人々と協働することができるグローバル人材の育成を行う。</p> <p>③発表会への積極的参加により本校の課題研究の成果を発表すると共に、小中高実験教室等を実施し、地域における科学技術人材育成に取り組む。</p>	<p>《評価指標》</p> <p>①(1)SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒(70%)以上</p> <p>(2)科学的思考力調査のプレテストからポストテストの伸びについて具体的操作期(3段階の最低評価)の生徒の割合(50)%減少</p> <p>(3)普通科2年生について、理科的数学的な見方考え方を生かした探究活動を実施できた生徒の割合(80%)以上</p> <p>②(1)SSHの取組により、科学英語に興味を高まった生徒(70%)以上、多様な価値観への理解が深まった生徒(70%)以上</p> <p>③(1)各種科学賞等での入選数(7)以上 全国大会への出品(2)以上</p> <p>(2)実験教室に参加後のアンケートによる満足度(80%)以上</p> <p>《活動計画》</p> <p>①(1)応用数理科において理科実験を(10回)以上、高大連携授業を(10)回以上実施する。</p>	<p>《評価指標による達成度》</p> <p>①(1)応用数理科3年生に実施したアンケートで3年間のSSHの活動で理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒84.7%</p> <p>(2)科学的思考力調査のプレテストからポストテストの伸びについて具体的操作期(3段階の最低評価)の生徒の減少割合16%</p> <p>(3)小学生対象理科実験教室では参加者アンケート満足100%、生徒満足度93%</p> <p>②(1)応用数理科3年生に実施したアンケートで科学英語に興味が高まった生徒84.6%、多様な価値観への理解が深まった生徒84.6%</p> <p>③(1)日本学生科学賞徳島県審査最優秀賞1点、優秀賞3点、入賞2点 第79回科学経験発表会特選2点 徳島県生物学会研究発表高校生部 奨励賞1点、近畿総合文化祭自然科学部門優秀賞1点、神戸大学サイエンスショップ高校生・私の科学研究発表会2025 奨励賞1点、令和7年度 徳島県統計グラフコンクール統計協会会長賞2点、入賞1点 全国高等学校総合文化祭自然科学部門 発表 中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会ポスター発表、スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 発表</p> <p>(2)小学生対象理科実験教室では参加者アンケート満足100%</p> <p>《活動計画の実施状況》</p> <p>①(1)応用数理科において基礎実験を10回、発展的実験を2回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) SSHの活動に対しての年間アンケート結果では、どの項目でも評価が高く、活動が充実していたことがうかがえる。理科や数学に興味を持つことができ、プレゼンテーション能力を伸ばすことができた」と回答している。</p> <p>また、課題研究では、日本学生科学賞徳島県審査において、最優秀に輝き、全国予備審査に出品するなど、高い評価を得ることができた。課題研究指導の手法や成果物については研究成果発表会等で紹介するとともにホームページで案内している。</p> <p>実験教室については、参加人数が少ないものを精選する形で回数を減らし実施した。それぞれの実験教室での満足度は高く、今後は他校と合同実施することで、負担を軽減を図っていきたい。</p> <p>現在、県内各校への課題研究手法の展開を進めているところである。今後は、生徒の主体性を育成する教育プログラムを開発し、本校ならびに県内各校での主体的な学びを促していく。</p>	<p>①(1)文部科学省指定SSH「認定枠」の指定を受け、次年度以降も今までのSSH活動で養った教育プログラムを継続実施していく。</p> <p>(2)科学的思考力の具体的操作期は減少が見られなかった。今後、経年変化から教材開発の効果を検証する。</p> <p>(3)実験教室は参加者並びに生徒満足度が高く、今後も学校連携等活用し、実施していく。</p> <p>②(1)海外交流活動など切れ目のない活動を続けていき、科学英語を活用する機会を増やす。</p> <p>③(1)今後とも、発表会の機会を増やすと共に発表会参加旅費を獲得していく。加速支援や外部資金を得ることができるよう外部団体への申請も含め実施していく。</p> <p>(2)今後とも高い満足度を維持する。</p> <p>①(1)基礎実験、発展的実験とも探究的要素を組み込むこととする。</p>

		<p>(2)応用数理科2年生において、年間(3)回の校内発表会を実施すると共に、3年生で論文を作成し、日本学生科学賞に出品する。また、高大連携を活用した課題研究を(3)グループ以上実施する。</p> <p>(3)普通科1年生「理数探究基礎」において、理科的数学的な見方考え方を生かした探究活動を実施する。</p> <p>(4)普通科2年生「未来探Q」において、高大連携による探究グループ(12)グループ以上、企業等連携(5)グループ以上実施する。</p> <p>②応用数理科ScienceEnglishで海外交流高とオンライン発表を(3)回以上実施する。対面での発表や共同実験を(2)回以上実施する。</p> <p>③(1)課題研究の県内発表会に(2)回以上参加、全国発表会に(3)回以上参加する。</p> <p>(2)小中高実験教室等を(5)以上行う。</p>	<p>(2)応用数理科2年生で3回発表会を実施した。高大連携を活用した課題研究を4グループで実施した。</p> <p>(3)普通科1年生「理数探究基礎」において、データサイエンス分野、自然科学分野のミニ課題研究を一回ずつ実施した。</p> <p>(4)普通科2年生「未来探Q」において、高大連携による探究グループ12グループで実施した。</p> <p>②応用数理科で海外交流校とオンライン発表を3回、対面での発表・共同実験2回実施した。</p> <p>③(1)課題研究の県内発表会に4回参加、全国発表会に9回参加した。</p> <p>(2)小中高実験教室を2回実施した。</p>		<p>(2)年間プログラムに基づいた発表会と探究活動の流れを引き継いでいく。高大連携の活用も発展させていく。</p> <p>(3)今後もミニ課題研究の教材数を増やしていく。</p> <p>(4)負担を平準化し、持続可能な形で実施する。</p> <p>②今後もScienceEnglish内のカリキュラムにオンライン発表と対面発表を組み込み、実施する。</p> <p>③(1)課題研究の県内・全国発表会に次年度も参加する。</p> <p>(2)実験教室は他校との合同実施も含め、持続可能な形で実施していく。</p>
<p>安心・安全な環境整備</p>	<p>①生活習慣の指導等の健康教育を推進し、健康及び成長発達への理解を深めるとともに、自主的に健康管理ができる能力の育成を図る。</p> <p>②学校環境衛生と感染症対策に努め、健康を守る環境の構築を図る。</p> <p>③自然災害に対する防災意識の涵養を図る。</p>	<p>《評価指標》</p> <p>①(1)生活習慣改善チャレンジ週間に十分に取り組めたと自己評価した生徒(70)％以上</p> <p>(2)心肺蘇生法とアレルギーの職員研修で今後に活かせるとの回答(80)％以上、生徒への心肺蘇生法講習の理解度(80)％以上</p> <p>(3)講演会等の理解度(80)％以上</p> <p>②学校環境衛生についての巡視と環境整備(毎月1回以上)</p> <p>③避難訓練や避難経路確認等を通して防災に対する関心が高まり、意識が変化したと回答する生徒(70)％以上</p> <p>《活動計画》</p> <p>①(1)事前アンケートで生活を振り返り、自分に合った目標を立てさせ、毎朝のSHRでの呼びかけやClassiでの情報発信を行うことで意識付けを図る。</p> <p>(2)実技やシミュレーション演習を中心に講習を行い、学校全体の緊急時対応能力の向上を図る。</p> <p>(3)熱中症講演会や生徒保健委員会による保健指導を実施するとともに、年間(12)回以上保健だよりを発行し、健康や生活習慣に関する情報を提供する。</p> <p>②定期的な巡視やサーキュレーター等の設置・使用状況の確認、飲料水の日常検査を行う。</p>	<p>《評価指標による達成度》</p> <p>①(1)十分に取り組めたと回答した生徒は24％だった。</p> <p>(2)職員研修では回答者全員が今後に活かせると答えた。生徒の理解度は91.5％だった。</p> <p>(3)講演会の内容を ・よく理解できた 77.1％、 ・だいたい理解できた 22.8％ という結果を得られた。</p> <p>②学校環境衛生に関する巡視と環境整備を毎月行った。</p> <p>③防災に関して関心があると回答した生徒は75％であり、昨年度とほとんど変化はみられなかった。</p> <p>《活動計画の実施状況》</p> <p>①(1)チャレンジ週間中、毎朝SHRで啓発を行った。</p> <p>(2)職員研修ではシミュレーション研修を実施した。</p> <p>(3)保健だよりを12回発行し、生活習慣や健康に関する情報を発信した。</p> <p>②後期保健委員による教室の環境チェックを11回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>「安心・安全な環境整備」という目標は、概ね達成されたと評価できる。学校環境衛生の巡視や環境整備を毎月継続し、保健委員による教室環境チェックも定着するなど、日常的な管理体制は確立している。</p> <p>また、保健だよりの発行、シミュレーション形式の職員研修の実施により、教職員の理解度は91.5％、講演会への理解度もほぼ100％に達しており、取組の効果は大きい。</p> <p>一方で、防災への関心が75％にとどまり昨年度から大きな伸びが見られない点や、生活習慣改善に「十分に取り組めた」とする生徒が24％に低迷している点は今後の課題である。</p> <p>今後は、訓練や啓発を体験的・主体的な学びへと発展させ、生徒自身が自分事として捉える工夫を重ねることで、より実効性の高い安全教育を推進していく。</p>	<p>①(1)学業や部活動と基本的な生活習慣の確立が両立できるよう継続的に働きかけ、自己管理能力の育成に取り組んでいく。</p> <p>(2)研修の実施方法を検討し、組織的な危機管理能力向上を図る。</p> <p>(3)引き続き保健だよりや保健委員会活動を通して、健康課題の解決に向けて働きかける。</p> <p>②感染症の流行も見られたため、換気の励行などより一層の環境整備を行っていく。</p> <p>③南海トラフ大地震を想定し、生徒の防災への意識をさらに高められるような、具体的かつ合理的な訓練を考えていく。</p>

		<p>③(1)各ホームルームで環境防災委員を中心に、年1回以上の避難経路確認に行く。</p> <p>(2)年1回、実践的な避難訓練を行い、生徒・教職員とも真剣に取り組む。</p>	<p>③(1)1, 2年生の全ホームルームで経路確認を実施した。</p> <p>(2)7月に実施した火災防災訓練では、情報伝達確認や避難経路確認を行った。</p>		
開かれた学校づくりの推進	<p>①家庭や地域社会と連携及び協働し、地域や保護者の信頼に応える学校づくりの推進に努める。</p> <p>②松柏会の活動を充実させ、保護者や地域の方々と協力しながら生徒の成長を促す。</p>	<p>①ホームページへのアクセス数、年間(450,000)件以上を目標とする。</p> <p>②進路説明会、大学視察、進路講演会・座談会を通して、子どもの進路への理解が深まったと評価した保護者(70%)以上</p> <p>《活動計画》</p> <p>①(1)ホームページの更新回数、月(10)回以上 (2)学校運営協議会において、地域のニーズと探究活動に関する学校のニーズのマッチングを図り、学習活動の充実につなげるとともに、HPによる情報公開を行う。</p> <p>②(1)進路説明会、大学視察、進路講演会・座談会を実施する。</p> <p>(2)体育祭バザーや祖父母の会を実施して、交流を深める。</p>	<p>①2月10日時点のアクセス数は、約290,000件で、1日の閲覧数は約1,000人程度である。</p> <p>②よく当てはまる、ほぼ当てはまるの合計が92.9%であった。</p> <p>《活動計画の実施状況》</p> <p>①(1)月10回以上実施した。 (2)予定通り実施した。</p> <p>②(1)進路説明会について、3年生は松柏会総会時に実施、1・2年生については10月に実施した。 大学視察については関西学院大学を訪問し、入学センター職員の方より大学概要・入試概要について説明を聞いた後、本校卒業生5名を軸とした4グループに分かれ、卒業生が保護者からの質問に答えるなどして、進路に対する意識を高める有意義な研修となった。進路講演会・座談会については、講師に高松高等予備校の藤田泰三氏をお迎えし、「大学入試の現状と受験生を持つ保護者の心構え ～親のこころ子のこころ～」と題して講演をしていただいた。また、卒業生8名を講師に迎えての座談会では、たくさんの質問に対して具体的な回答をしていただき、生の声を聞くことができた。</p> <p>(2)体育祭バザーではジュースとアイスクリームの販売をしていただき、祖父母の会では阿波和紙を使用したポチ袋作りを通して、交流を深めることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) HPの年間アクセス数は目標未達の見込みだが、一日平均約1,000件の閲覧実績は本校への高い関心を示している。今後も情報の質・量を追求し、学校運営の透明性を高めていく。</p> <p>松柏会活動は計画通り全行事を完遂した。今後も保護者との連携を深め、生徒の成長を支える体制を強化する。</p> <p>「祖父母の会」は、時代の要請に応じ「生徒が感謝を形にする機会」へと昇華させた担当の工夫を評価する。実態との乖離を整理し、現代の家庭環境や教育目標に合致した名称変更も視野に、新たな伝統として確立を図る。</p>	<p>①要望のある行事予定の早期の掲載について、「変更有」の理解をいただいた上で、実施する。</p> <p>②祖父母の会の開催方法については、昨年度同様家庭クラブと連携して、在校生全ての祖父母にプレゼントし、気持ちを伝えられる形で実施した。本校で長く続く伝統行事であるが、今の時代に合った取組に変更して良かったと感じている。大学視察や進路講演会・座談会が、更に参加者が増えて活発な研修となるよう、企画内容や案内方法などを検討していきたい。</p>
創立150周年記念事業の円滑な実施	<p>①同窓会、後援会、松柏会と協力しながら、創立150周年記念事業を成功させ、伝統を守りつつも、城南らしく新しい学校のあり方を継承していく。</p>	<p>《評価指標》</p> <p>①150周年事業に対する満足度(80%)以上</p> <p>《活動計画》</p>	<p>《評価指標による達成度》</p> <p>①生徒の満足度は94.1%であった。</p> <p>《活動計画の実施状況》</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 実行委員会との強固な連携により、150周年記念事業を完遂した。この達成感「城南らしき」を追求する学校全体の揺るぎない自信へとつながっている。</p>	<p>①多くの皆様から寄せられた寄付金は、本校の伝統と教育に対する期待の現れである。これを受け、来年度より10年間にわたる「城南生ジャンプアップ基金」の運用を開始する。すでに実行委員会との協議を経て策定した選考方法に基づき、適正かつ効果的な運用に努める。</p>

		<p>①記念式典、記念誌、記念事業・広報のそれぞれの部会で計画を立て、実行委員会で承認されたことを推進しながら、150周年記念事業がより良いものになるよう努める。</p>	<p>①それぞれの部会で検討した内容を実行委員会で承認していただき、各部会とも、計画的に事業を進めることができました。</p>	<p>る。伝統を重んじつつ変化を恐れない姿勢こそが、「ジョウナンらしく、あたらしく。」の真髄である。この大きな成果を次代への基盤とし、さらなる高みを目指していく。</p>	<p>本基金を通じて生徒の挑戦を多角的にサポートし、その成長を力強く後押しすることで、寄付に込められた厚意を実のある教育成果へと繋げていく。</p>
--	--	---	---	---	--

<p>《学校関係者の意見》</p> <p>1. 教育課程・学習指導(地域連携・探究活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師活用時、学校の狙いと講師の意図を事前に共有する「目線合わせ」の仕組み化を要望する。 ・生徒の意欲に応える将来的選択肢の拡大をサポートしうる教職員研修の実施等も期待する。 <p>2. 国際教育・表現力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾研修で生徒が実感した「台湾の学生の英語プレゼンテーション能力の高さ」を本校生徒の一つのベンチマーク(指標)とし、設立した「城南生ジャンプアップ基金」を活用したさらなる高みへの挑戦を期待する。 <p>3. 防災教育の推進:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に評価の高い「津田中学校」等の先進モデルを参考に、地域防災の担い手となる高校生ならではの視点を用いた学びや取組への支援を期待する。 <p>4. 生徒指導・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ車普及による事故重症化リスクに対し、松柏会(PTA)と連携したヘルメット着用の啓発など、学校・家庭が一体となった命を守る体制構築を求める。 ・スマホ等の依存リスクは「人生の危機管理」に直結する課題として、生徒に自覚させる指導を期待したい。また、全生徒に一律に計画提出を課す「生活改善プロジェクト」は義務感が優先し手法の形骸化を招いている感が否めない。形だけの計画作成に終始させず、最優先課題の特定と共有から始める、実効性の伴うアプローチを提言する。 <p>5. 学校運営・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式HPだけでなく、部活動等のSNS波及効果も合算して分析するなど、広報成果の多角的な可視化を検討されたい。
--